

令和4年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立千鳥小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・様々な造形活動を計画し、各学年の発達段階に応じて、造形遊び、絵や立体、工作などの内容を偏りなく指導することにより、構想に基づいて工夫して表現できる力が高まった。
- ・低学年では、手や体全体の感覚を十分に働かせて、身近な材料や用具を使えるようになった。
- ・中学年では、材料や用具による表現の違いを児童自身が試しながら、作ることができるようになった。
- ・高学年では、様々な形や色などを基に、自分の意図と表したいイメージをもって計画的に作れたり、試行錯誤しながらいろいろな表し方や材料を使ったりできるようになった。

(2) 課題

- ・形や色などから自分が感じたことをもとにイメージを広げたり、表したいものを見付けたりすることが難しい児童がいる。
- ・制作途中で集中力や意欲が途切れてしまい、最後まで取り組めない児童がいる。
- ・手先が思うように動かせなかったり、道具に触れた経験が少ないために、技能の習得に時間がかかることがある。
- ・基本的な造形能力の定着と向上を図るとともに、自分のイメージを思い通りに表せるよう、発想力と造形能力の両方をバランスよく高めることで、児童の達成感や自己肯定感、造形的な見方などの能力を高められると考えられる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年			
第5学年	大田区学習効果測定の教科外のためなし		
第6学年			

(2) 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・よく使う材料や基本的な用具の扱い方を理解しつつある。	・形や色などから自分が感じたことを基に、イメージを広げたり、表したいことを見付けたりする力に課題がある。	・思いどおりに表現できないと手が止まってしまったり、迷いすぎて時間がかかってしまったりすることがある。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・よく使う材料や基本的な用具による表現の違いを理解しつつある。新しい技法や道具の使い方も、試行錯誤しながら習得しようとしている。	・形や色などから自分が感じたことをもとに、イメージを広げたり、表したいことを見付けたりする力に課題がある。	・思いどおりに表現できないと失敗を怖がって手が止まってしまうたり、工夫しようとする意欲が高まらなかったりすることがある。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の意図や表したいイメージをもって、計画的に作るができる。表したいイメージに合わせて、材料や表現方法を自分で選択できる児童が増えている。	・自分の意図や表したいイメージに合わせて、作りたいものを選択し、決定する力についての個人差が大きい。作る前からイメージを膨らませられるような事前指導と制作途中での個別指導が必要である。	・試行錯誤しながら、積極的に取り組もうとする意欲をさら高める必要がある。最後まで完成させようとする粘り強さを育てていく。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的な道具の使い方を繰り返し指導し、基礎的な造形能力の定着を図る。	・作品を作る過程に鑑賞の時間を取り入れ、児童の発想を広げるきっかけとして活用する。	・まだ基本的な道具の使い方には課題があるため、集中力が続かなかつたり、自分の思い通りに表現できずに意欲が高まらなかったりすることがある。基本的な道具の使い方の定着を図る。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・これまでの学習で学んだ技法や、道具の使い方を試す時間を十分に設定することで、試行錯誤しながら技能を高められるようにする。	・題材の導入で、試作を見せたり、児童の興味・関心を引きつける話をしたりして、色や形から想像を広げたり、生活体験の中から表現したいものを見付けられたりするように支援する。	・導入時に材料や技法を試す時間を設けることで、主体的に取り組むやすいきっかけを作ったり、必要以上に失敗を怖がらないよう促す。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・大量の材料を提示したり、道具や材料を試す時間を設定したりすることで、試行錯誤しながら積極的に技能を獲得できるようにする。</p>	<p>・色や形から想像を広げたり、生活体験の中から表現したい物を見付けたりするとともに、身近な作品や友達の作品から発想や、構想を得られるような発想力を高める。</p>	<p>・図工への苦手意識をもつ児童と、図工が好きで積極的に取り組む児童との差が開き始めている。苦手意識をもつ児童へはスモールステップでできることから取り組ませ、個別指導を丁寧に行う。</p>